令和7年度　アーツ前橋事業評価調書（展覧会以外）

資料　2-(3)

事業名	令和7年度アーツナビゲーター研修（おしゃべりアートデイズ、ほか鑑賞会）							
	事業1	時期・日数	アーツナビゲーター研修 2025.6.14-2026.2.25　7回	会場	スタジオ、展示室ほか	人数	71
	事業2	時期・日数	おしゃべりアートデイズ 2025.5.10-2026.3.14　8回	会場	展示室ほか	人数	38
	事業3	時期・日数	前橋市図工美術実技研修会 2025.7.28　1回	会場	スタジオ、展示室	人数	23
	事業4	時期・日数	個別対応、対話型鑑賞会 2025.7.28,8.7　2回	会場	スタジオ、展示室	人数	54
	事業5	時期・日数	それいけ前橋！出前講座 2026.2.18、3.4,11,17　6コマ	会場	中央公民館、市内小学校	人数	205

担当者	辻瑞生、東美沙季
目的・目標 （総括表）	サポーター活動の一環として、来館者と共に対話型作品鑑賞を行うボランティアガイド「アーツナビゲーター」を育成するための研修プログラム。「美術鑑賞はハードルが高い」と感じている人たちや、「作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞である」と考えている人に、自分の眼で作品を鑑賞する楽しさを知ってもらう。
キーワード	主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有
他団体との連携 （共催、協力等）	教育委員会、生涯学習課
参加作家	

印刷物等	チラシ（A4）	ポスター				
	0部	0部				

財務指標	収入（A） 別表から転載	支出（B） 別表から転載	収支比率 （A）／（B）	一人当たりコスト	収入内訳		
					参加費	助成金	他
予算	-	582,420 円	-	10,400 円	-	-	-
決算見込	-	307,160 円	-	4,326 円	-	-	-
差額	-	-275,260 円	-	-6,074 円	-	-	-
予算／決算	-	52.7%	-	-	-	-	-

・広報戦略 ・新たな試み （転記）	・アーツナビゲーター研修では、合理的配慮が必要な来場者への対応に備えて、外部講師を迎えて「やさしい日本語」や「視覚障害者と一緒に鑑賞する」をテーマとした研修を行った。 ・「やさしい日本語」研修では、受付看視スタッフにも参加を呼びかけた。
広報実績 ［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・市内公立中学校美術部の合同鑑賞会を地元紙が取材し、紙面で紹介された。

数値目標					
	指標1	目標	おしゃべりAD参加者　56名（8回×7名）	実績	71名
	指標2	目標	出前講座等鑑賞会　5回	実績	9回

観覧者層のターゲット	アーツナビゲーター：事業趣旨をよく理解し、アートやコミュニケーションが好きな人 イベント参加者：アートが好きな人、アートは敷居が高いと思っている人など
成果	定期開催や出前講座等のイベント回数も増えたことにより、アーツナビゲーターの活動の場が増えた。イベント参加者のリピーターが増えた。
ねらい1	おしゃべりアートデイズを「多様な学びの日」（第2土曜日）や無料日などに実施することで、参加者を増やす
成果	参加が無料となることで、ナビゲーターが友人、知人を誘いやすくなり、リピーターも増えた。
ねらい2	アーツナビゲーターのスキルアップと自主的な活動体制、および定期的な「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り
成果	コーチング以外の研修を取り入れることで、多様な鑑賞方法を学び、さまざまな来場者への対応力を養うことができた。
ねらい3	「それいけ前橋！出前講座」と連携することで、アーツナビゲーターの活動の場を増やす
成果	中学校5クラスで出前講座を実施できたことは、アーツナビゲーターの自信につながるとともに、対応できる体制が整ったといえ、活動の幅が広がった
課題・改善点	平日に出前講座としてナビゲーターが活躍する場が増えてきているので、平日対応可能なナビゲーターを確保していきたい。 「おしゃべりアートデイズ」開催に限らず、ラーニングプログラム全体の再構築が必要。